

KAGAWA アンバサダーからのお便り

～飛鳥童さん～

<カナダが世界に誇る多様性文化について>

40年間暮らしたカナダ最大都市のトロントから帰国して2年になります。日本で生活を始めて感じるのは日常生活でカナダに関する情報が乏しく、カナダ在住中も日本に関する情報が少なかったことに寂しさを感じていた。それを実感したのは1997年に“CREATING THE MOSAIC”「モザイクの国カナダの子ども文化展」～多民族の国・カナダを創る子どもたち～（共催：BC州サイモンフレーザー大学、協賛：カナダ大使館、カナディアン航空）を日本全国10都市で1ヶ月間開催した際、カナダから児童文学評論家、児童文学作家、サイモンフレーザー大学教授、絵本作家の私を含めて4人がカナダを代表して参加した。



「モザイクの国カナダの子ども文化展」ポスター東京・青山「こどもの城」

Who Hides in the Park ©1986, Warabé Aska, Published by Tundra Books

子どもの文化を通してカナダの文化を紹介する趣旨で企画されたイベントには、カナダで出版された児童図書の代表作300冊を持参して日本各地で展示会、講演会、朗読会を催した。私の講演会の席で日本人はカナダに関してどの程度の知識と関心を持っているのかを知りたくて

参加者に質問をした。その答えの大半がバンクーバー、ロッキー山脈、バンフ、ナイアガラの滝、「赤毛のアン」のプリンスエドワード島等など、観光名所や地名ばかりだった。またカナダとアメリカの相違についても質問したところ、政治、経済、文化面でもほぼ同じ国だと認識していることが判った。私もカナダに渡った頃は同様な印象を抱いていた。でも住み慣れるにつれてアメリカの“人種のるつぼ主義”に対し、カナダの国策である“多様文化主義”に魅せられ、当初1~2年の予定が40年間も滞在してしまった。トロントは世界165カ国から移住してきた多人種、多言語、多宗教で成り立ち、日常生活で100ヶ国語が飛び交うコスモポリタン都市は差別も少なく、居心地の良さを感じた。多様文主義はモザイク文化とも言われ、カナダへの移住者は皆それぞれ異なる文化を背負って来るので、それをカナダに植え付け、異なる色を寄せ合いモザイクの壁画のようなハーモニーを奏でている。それが他国に例を見ない多様性と可能性に富んだカナダの財産になっている。2015年には「トロントは世界一住みやすい都市」に選ばれた。（因みに日本は大阪15位、東京16位）



「オタワ国際作家祭」後援：在カナダ日本国大使館
<作家の学校訪問>行事で2日間で4校の小学校に招かれてお話をする

私はカナダやアメリカで絵本が出版される度に出版社を通して図書館や教育機関から講演やワークショップの依頼があり、お話に行く機会に恵まれた。学校訪問ではいつもクラスの子どもたちが非常に国際色豊かなのに圧倒された。新しく移住してきた人たちはトロント市内よりも不動産や物価が安い郊外に住むので、郊外の学校は人種の混交率も高く、それがモザイク模様のようにクラスに反映されていた。幼少年期から学校で「みんな違って当たり前」という環境で育つので差別や虐めは起こりにくく、お互いに相手を理解しようと努める。そしてお友達を通してそれぞれの出身国の風習、食べ物、宗教など異国の文化を吸収することができる。私はカナダ生まれの3人の子どもがいるが、彼らは少年期の頃からよく友達の家へ行ったり、招かれたりしながら宗教的理由で食べ物の規制、風習、マナー等、お互いに生きた学習をしてい

る。私も欧米人が家庭で子どもの躰を厳しく大切にしていることを学び、実践し、知友人たちとの交流に役立てたことが大きな収穫だった。



米国・カンザス州の小学校に招待され、空港で熱烈歓迎を受ける

2015年にユネスコが創設70周年を記念して「世界の国々に多様性の尊重、持続可能な社会の実現」を呼びかけたが、カナダは既に1971年にピエール・トルドー元首相（現ジャスティン・トルドーの父親）の時代に「多様文化主義」（マルチカルチャリズム）を国策として定め、今年で50年を迎える大先輩である。カナダは2017年に建国150年を迎えたまだ若い国だが、ベトナム戦争終結後ボートピープルを受け入れたり、香港が中国に返還されると発表された直後から数万単位の人々がカナダに移動して来るなど、世界中から移住者や難民を受け入れており、国際情勢に非常に敏感な国です。またカナダは連邦政府よりも州政府がそれぞれ独自の法律、教育、医療、税制度を実践しており、日本がこれから目指そうとしている地方創生のモデルとなる良き先輩でもあります。

私は3年間の欧州諸国放浪をはじめカナダでの生活を通して貴重な体験をし、多くのことを学んだ。創作絵本8冊も北米全土の公立図書館に24万冊余りが収蔵され、高円宮妃久子殿下との共作絵本『氷山ルリの大航海』もミュージカルやオペラなどに舞台化され、13ヶ国語で出版された中のアラビア語に翻訳された本は、イラク戦争で被害を受けたサマワ市内の学校や図書館に国際交流基金を通し、他の本も含めて2万4000冊が贈呈された。また出版を後援して下さったユニセフが教育を受ける機会のない世界中の子どもたちに無料配布された。私自身幼少年期に母子家庭（誕生前に父親戦死）、身体障害者としてたっぷり差別や虐めを体験した。今年も6月20日に疎開先の母校・坂出市立金山小学校創立100周年記念特別講演会講師をはじめ、あちこちから講演依頼を受けている。「一本足でも世界で勝負できるよ」というメッセ

ージと共に、私が長い海外生活で学び体験したことを故郷や日本中の子どもや親たちに伝えていきたいと思っています。

飛鳥 童



飛鳥 童 (あすか わらべ) さん

居住地：カナダ（トロント）、日本（香川）

高松市出身。

代表作の一つで高円宮妃久子殿下共作「冰山ルリの大航海」は、13ヵ国語に翻訳出版され、ミュージカル上演、カナダの教科書にも多数採用される。令和元年には、日本に拠点を移し、これまでの経験をもとに、学校や図書館で講演会やワークショップを行っている。

◇ KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇ KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々にKAGAWAアンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されているKAGAWAアンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。